

旧館 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100199		
法人名	社会福祉法人 鷹山会		
事業所名	幸の家(旧館)		
所在地	福井県福井市免鳥町22-70		
自己評価作成日	平成24年11月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた安らぎのロケーションで、建物は木造にて木のぬくもりを感じます。やわらかな自然光が差し込む吹き抜けの廊下、そして各居室からの眺められる景色は季節を感じて頂けます。天気の良い日は、中庭で日光浴ができます。渡り廊下から外の景色を眺めながらの朝・夕の廊下歩行は、気持ちの良いものです。職員は、サービスの質の向上に向けて、意識を高めながら日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、福井市北部にある海岸の高台に立地しており、敷地内には法人の特別養護老人ホームと通所介護事業所が隣接している。ホームの建物内で事業所間を行き来できるようになっており、利用者の急変時には特別養護老人ホームの看護師の協力が得られる体制となっている。また、毎年開催される法人施設合同の夏祭りに町内会や婦人会などからボランティア150名の参加を得たり、避難訓練に地区住民の参加を得るなど地域と密接に関わっている。さらに、隣接の特別養護老人ホームで週3回地区の婦人会が開催する喫茶店も利用できるなど住民のみならず利用者同志の交流も図っている。利用者は近隣地区の住民がほとんどであり、入居しても住民との交流の機会は多く、地域に支えられているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

{セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。}

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「安心、安全をモットーに入居者が心安らかに自分らしく尊厳を持って暮らせる生活を支援します。」の下に、職員一同共有に努める為、毎朝のミーティング時に唱和し実践につなげている。	法人の理念をもとにホームの基本方針である「笑顔あふれるホームづくり・家庭的で楽しいホームづくり、長寿を感謝するホームづくり」を策定している。また、毎朝のミーティング時に法人理念を唱和し、共有している。	ホームの基本方針について職員間で話し合い、理解を深めるとともに、玄関や共有空間に掲示し来訪者や家族への周知にも努められたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の幼稚園、小学校、中学校が当事業所に慰問に来る等の交流を行っている。また、地域の方が野菜や果物をホームに届けて頂いたり、地域で実施される文化祭には利用者の作品を展示して頂いている。	地元の園児や学生が訪問したり、地区のボランティアなどがホームを訪れ交流している。また、地域の祭りでは神輿がホームの玄関まできたり、住民から野菜や果物の提供を受けたり、文化祭に利用者の作品を展示するなど交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援の方法が伝わるよう広報誌を作成し、ご家族の方へはもちろん、面会に来られた方にも気軽に手に取って頂けるように、玄関に設置し声掛けもしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて事業所からの報告を行うとともに、参加者からの質問や要望を受け、サービスの向上につなげているところである。	家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市介護相談員の参加を得て2か月毎に開催しており、運営状況を報告するとともに参加者から意見・要望を得ている。また、参加者から相談があるなど、双方向の会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には交流の為に会議等に出て頂けないかと直接働き掛けを行ったが、現在のところ市町村担当者とそれ以上の交流がないところである。	地域包括支援センター職員に運営推進会議への参加を得たり、家族会が実施する認知症講習の講師をしてもらうなど、日頃から連携している。また、市職員には運営上の問題があれば相談するなど連携している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内での内部研修に職員が参加し、身体拘束をしないケアの周知徹底を行っている。また、園として身体拘束委員会を開催し、各部署ごとに参加することでそれぞれの状況、活動を発表し合っている。	定期的開催される法人の内部研修に職員が参加し、身体拘束の弊害などの理解を深めている。また、玄関はこれまで開錠していたが、現在、不穏で外に出たがる利用者があり、職員間で連携して本人に付き添っているが開錠には至っていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部研修に参加し、ミーティングなどで伝達を行っている。また、日常生活を通し、虐待行為に当たるような対応が行われていないか常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内で行う研修に職員が参加し、利用者の権利擁護について学んでいる。また、成年後見制度に関しては、実際本年度活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、同意を得ているところである。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不満や意見など全職員がミーティング等で情報を共有できるよう心掛けし、その場で業務改善ができるような内容であればすぐに反映させているところである。	家族の意見は面会時やケアプラン策定時、行事のときなどに聞くよう努めており、得られた意見をケアプランや日々のケアにも反映するよう努めている。なお、利用者の意見は日々の関わりの中で確認するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の園内の職員会議、ホーム内でのスタッフ会議と意見を聞く場を設け、また、職員用の意見箱を設置するなどして反映させるよう努めている。	職員からの意見や提案はミーティングやスタッフ会議の際や年1回行う施設長との個別の面談の際に聞き、日々のケアに反映させている。また、法人で職員を対象とした意見箱も設置している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を高める為、園内外を問わず研修した内容をスタッフ会議を通して全職員に情報共有することに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの機会には積極的に参加しているところである。研修の報告としては、月1回のスタッフ会議の際に報告会を設けて復命することとなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム協議会に参加し、同業者が集う会にて情報交換を行うとともに、同協議会が主催する他事業所への交換実習に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅ケアマネより情報収集している。可能であればホームまで来所し本人の要望等を聞き入れているところである。また、入居前に本人、家族の見学を実施し、希望があれば体験外泊も行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思い、状況などを確認したうえで、今何が必要かを家族及び本人と一緒に導き出している。そこで「暮らしの情報シート」を記入して頂き、生活歴が把握できるように心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人と家族の話を聞き、それぞれが感じている不安や疑問、ニーズを見極めたうえで、本人にとって一番良いと考えられるサービスの提案、合意のうえで提供しよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等、ご利用者様と共に日々行う事で色々な助言を頂いたり、また外出等の機会に会話することで日常生活の知恵を学ばせて頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを面会時や電話などでお伝えすることで共通認識につなげ、本人を支えていく為の協力関係作りに努めている。またご家族の思いも十分に汲み取りながら、時には間に入る事でお互いの理解を深めるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者それぞれの馴染みの場所(自宅や近隣の場所(お寺さん等))が疎遠にならないよう、希望に併せて外出の支援を行っている。また、それぞれの地域のお祭り等の行事などに併せた外出の支援等も同様。	馴染みの場所へ散歩やドライブに出かけたり、利用者の知人・友人がホームを訪ねるなどこれまでの関係に配慮している。また、年末には利用者が親族などに出す年賀状の作成を手伝うなど工夫している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションにできるだけ利用者全員が参加して頂くようにし、交流を深めて頂いている。ホールでのテーブル席は相性の良さを客観的に決めており、気の合う人との会話を大切にして頂き、場合によっては、本人の意見を尊重し席替えも随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っている。また、併設施設への入所となったケースではその本人やご家族含め、面会、行事等でお話しよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活の中での症状や会話などから本人の希望や意向の把握に努めている。	センター方式の暮らしの情報シートを活用し、これまでの生活歴を把握したうえで、普段の何気ない会話の中から利用者の思いを把握している。なお、思いをなかなか表せない利用者には、表情や動作などから思いを汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャー等、関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書等を活用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。また、毎朝のミーティングにて、現状の情報共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において話し合いを実施、意見や提案を反映したプラン作りに心掛けている。	計画担当者は利用者および家族の意向を確認し、担当職員の意見を踏まえて介護計画を作成している。介護計画を定期的に見直しをするほか、急変時には随時見直ししている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス表や個別記録を基にモニタリング、ケアプランの見直し、評価を実施している。また、個別記録に毎日その日あった出来事を記録している。また、朝夕の申し送りの際に職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状態に応じ、通院などの支援を柔軟に対応している。併設施設への各種行事参加、交流を行い調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌、踊り、紙芝居等の慰問の団体やボランティア、幼小中学校の慰問や公民館行事に参加させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を確認した後、それぞれに受診を行っている。受診できない場合は、かかりつけ医と連携し、適切な処置等対応を行っている。	希望するかかりつけ医による受診が可能であり、受診は基本的に家族同行としているが、急変時は職員が同行している。職員が同行しない時は、家族をとおして口頭や文書で日頃の様子を伝えるようにしている。また、協力医療機関が月1回往診に来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所で看護職員を配置し、日常の健康管理を行っているところである。また協力医や併設施設との看護職員との情報交換を実施し医療支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーと関係医療機関の窓口(地域連携室等)との情報交換を行い退院支援を行っているところである。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期のケアについてご家族の意思を確認している。また、重度化した場合等について、必要に応じてかかりつけ医、協力医との連携を行い看取り介護を実施している。また看取り介護指針を設置し、方針の共有を図っている。	看取り介護指針を作成しており、重度化した場合は家族にホームの方針を説明し、希望する場合は終末期ケアを実施している。なお、終末期は協力医療機関の医師や併設の特別養護老人ホームのナースと連携して対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の「事故対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」に即して職員に周知しており、その通り実施しているところである。また、消防署の救急隊員の協力のもと、対応の講習を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・昼間を想定した避難訓練を実施しているところである。また地域自治会と防災協定を結び、地域連携訓練を実施している。	昼夜の火災を想定した避難訓練を年2回実施しており、うち1回は消防署立会いのもと町内会や婦人会、自警団の参加を得て実施している。また、年1回、市の防災課職員の参加を得て町内会と合同で津波を想定した避難訓練も実施している。なお、食料や水などの備蓄も法人で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドを尊重し、日々のケアの中で周囲に判らないケアを心掛けている。また、プライバシー情報に関する保護の方針・目的を策定、内部研修などで周知を図り実践しているところである。	入居の際に広報誌の顔写真掲載や部屋の名札掲示などについて意向確認をするなどプライバシーに配慮している。また、法人内で定期的開催されている接遇研修にも参加しており、職員間で日頃のケアを振り返り話し合う機会も設けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、選択の自由を心掛けたケアを行っている。利用者との会話では命令口調にならないよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課にそった基本的な流れはあるが、個人のペースにそって無理のない生活が送れるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を自由に着て頂いている。定期的に理容ボランティアの支援、スタッフでは随時散髪、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは利用者さんと共にやっている。また味付けの助言も毎日頂いている。スタッフと利用者が同じテーブルを囲み、食事が楽しめるよう雰囲気作りを大切にしている。	利用者は野菜の皮むきや盛り付け、茶碗拭きなど出来る範囲で食事の準備や後片付けを手伝っており、職員は持参した弁当などを利用者と同じテーブルと一緒に食べている。また、行事食やおやつなどは利用者と職員が同じものを一緒に食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェックし、記録することでスタッフが情報を共有している。メニューは併設施設の管理栄養士にチェックをさせて頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っており、可能な限る自力で歯磨きを行って頂いている。就寝前に義歯洗浄剤での洗浄も実施し、清潔な状態を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握したうえで適切な介助を行っているところである。またプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	可能な限り排泄機能が低下しないよう利用者一人ひとりの排泄を記録し、排泄パターンを把握している。これをもとにタイミングを見計らって利用者に声かけを行い、トイレに誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録にて管理し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行っている。野菜、果物、繊維質の多い食材を取り入れ、栄養バランスに気を付けている。併設施設の管理栄養士からアドバイスを適宜受けたり、昼食前の全員での体操や、1日2回の歩行訓練を取り入れる等の工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、日中ではあるが一人ひとりに入浴順の記希望やタイミングを確認しながら対応している。	入浴は家庭浴とリフト浴が可能であり、基本的に週2回の個浴で支援している。なお、夏場は入る回数を増やしたり、シャワー浴に変更するなど臨機応変に対応している。入浴を嫌がる入居者には無理強いせず、曜日を変更して対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握したうえで、日中に活動が多くなるよう支援させて頂き、夜には落ちついた環境を提供し、安眠して頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効についてのファイルを作成している。全職員がその情報を共有し、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の変更時には、本人への説明も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で、その方々に役割を持って頂けるよう、促し支援を行っているところである。また、生活歴などから、その人の得意なことを把握し発揮して頂けるようなチャンス作り心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温などを考慮し、希望に沿って散歩や外出ができるよう支援しているところである。	花見や祭り、外食、買い物などに外出するほか、神社や裏山への散歩など気分転換が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方は、安心感の為に自分の財布や小額の金銭を持って頂いている。買い物、ドライブなどに出掛けることで支援している。また、併設施設での喫茶店や自販機まで職員が付き添い、飲み物を購入して頂いたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが書いた年賀状を毎年送ったり、手紙に関しては必要に応じて支援している。希望のある方は、ご家族に電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が作成した作品を廊下に掲示したり、季節に合った壁画を飾ったり、各居室の前の廊下には花を生けて飾ったりしている。台所からはいつも調理の音や匂いがするよう家庭的で居心地の良い空間づくりを心掛けている。	共有空間は天井が高く開放的で、大きな窓から中庭が見え四季の移り変わりが感じられる。壁には利用者手作りの貼り絵やマスコット人形などが飾られ、温かみを感じられる。畳コーナーやソファもあり、利用者がくつろげる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、個々の居場所を確保し気の合ったご利用者様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込んで使用して頂いている。家族の写真も目の見える所に置いたり、自分の作った作品なども飾って頂いている。	フローリングと畳の居室があり、どちらにもベッドと洗面所、クローゼット、エアコンが備えてある。利用者は家族の写真や昔描いた油絵などを思い思いに飾っており、その人らしい居心地の良い空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段等移動空間に手摺を配置し出来るだけ自立歩行が可能なよう安全面に配慮している。		

新館 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100199		
法人名	社会福祉法人 鷹山会		
事業所名	幸の家(新館)		
所在地	福井県福井市免鳥町22-70		
自己評価作成日	平成24年11月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた安らぎのロケーションで、建物は木造にて木のぬくもりを感じます。やわらかな自然光が差し込む吹き抜けの廊下、そして各居室からの眺められる景色は季節を感じて頂けます。天気の良い日は、中庭で日光浴ができます。渡り廊下から外の景色を眺めながらの朝・夕の廊下歩行は、気持ちの良いものです。職員は、サービスの質の向上に向けて、意識を高めながら日々努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「旧館」と同じ。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「安心、安全をモットーに入居者が心安らかに自分らしく尊厳を持って暮らせる生活を支援します。」の下に、職員一同共有に努める為、毎朝のミーティング時に唱和し実践につなげている。	以下「旧館」と同じ。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の幼稚園、小学校、中学校が当事業所に慰問に来る等の交流を行っている。また、地域の方が野菜や果物をホームに届けて頂いたり、地域で実施される文化祭には利用者の作品を展示して頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援の方法が伝わるよう広報誌を作成し、ご家族の方へはもちろん、面会に来られた方にも気軽に手に取って頂けるように、玄関に設置し声掛けもしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて事業所からの報告を行うとともに、参加者からの質問や要望を受け、サービスの向上につなげているところである。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には交流の為に会議等に出て頂けないかと直接働き掛けを行ったが、現在のところ市町村担当者とそれ以上の交流がないところである。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内での内部研修に職員が参加し、身体拘束をしないケアの周知徹底を行っている。また、園として身体拘束委員会を開催し、各部署ごとに参加することでそれぞれの状況、活動を発表し合っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部研修に参加し、ミーティングなどで伝達を行っている。また、日常生活を通し、虐待行為に当たるような対応が行われていないか常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内で行う研修に職員が参加し、利用者の権利擁護について学んでいる。また、成年後見制度に関しては、実際本年度活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、同意を得ているところである。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不満や意見など全職員がミーティング等で情報を共有できるよう心掛けし、その場で業務改善ができるような内容であればすぐに反映させているところである。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の園内の職員会議、ホーム内でのスタッフ会議と意見を聞く場を設け、また、職員用の意見箱を設置するなどして反映させるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を高める為、園内外を問わず研修した内容をスタッフ会議を通して全職員に情報共有することに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの機会には積極的に参加しているところである。研修の報告としては、月1回のスタッフ会議の際に報告会を設けて復命することとなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム協議会に参加し、同業者が集う会にて情報交換を行うとともに、同協議会が主催する他事業所への交換実習に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅ケアマネより情報収集している。可能であればホームまで来所し本人の要望等を聞き入れているところである。また、入居前に本人、家族の見学を実施し、希望があれば体験外泊も行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思い、状況などを確認したうえで、今何が必要かを家族及び本人と一緒に導き出している。そこで「暮らしの情報シート」を記入して頂き、生活歴が把握できるように心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人と家族の話聞き、それぞれが感じている不安や疑問、ニーズを見極めたうえで、本人にとって一番良いと考えられるサービスの提案、合意のうえで提供しよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等、ご利用者様と共に日々行う事で色々な助言を頂いたり、また外出等の機会に会話することで日常生活の知恵を学ばせて頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを面会時や電話などでお伝えすることで共通認識につなげ、本人を支えていく為の協力関係作りに努めている。またご家族の思いも十分に汲み取りながら、時には間に入る事でお互いの理解を深めるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者それぞれの馴染みの場所(自宅や近隣の場所(お寺さん等))が疎遠にならないよう、希望に併せて外出の支援を行っている。また、それぞれの地域のお祭り等の行事などに併せた外出の支援等も同様。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションにできるだけ利用者全員が参加して頂くようにし、交流を深めて頂いている。ホールでのテーブル席は相性の良さを客観的に決めており、気の合う人との会話を大切に頂き、場合によっては、本人の意見を尊重し席替えも随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っている。また、併設施設への入所となったケースではその本人やご家族含め、面会、行事等でお話しよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活の中での症状や会話などから本人の希望や意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャー等、関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書等を活用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活のペースやリズム、体調を把握しよう心掛けている。また、毎朝のミーティングにて、現状の情報共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において話し合いを実施、意見や提案を反映したプラン作りに心掛けている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス表や個別記録を基にモニタリング、ケアプランの見直し、評価を実施している。また、個別記録に毎日その日あった出来事を記録している。また、朝夕の申し送りの際に職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状態に応じ、通院などの支援を柔軟に対応している。併設施設への各種行事参加、交流を行い調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌、踊り、紙芝居等の慰問の団体やボランティア、幼小中学校の慰問や公民館行事に参加させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を確認した後、それぞれに受診を行っている。受診できない場合は、かかりつけ医と連携し、適切な処置等対応を行っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所で看護職員を配置し、日常の健康管理を行っているところである。また協力医や併設施設との看護職員との情報交換を実施し医療支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーと関係医療機関の窓口(地域連携室等)との情報交換を行い退院支援を行っているところである。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期のケアについてご家族の意思を確認している。また、重度化した場合等について、必要に応じてかかりつけ医、協力医との連携を行い看取り介護を実施している。また看取り介護指針を設置し、方針の共有を図っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の「事故対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」に即して職員に周知しており、その通り実施しているところである。また、消防署の救急隊員の協力のもと、対応の講習を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・昼間を想定した避難訓練を実施しているところである。また地域自治会と防災協定を結び、地域連携訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドを尊重し、日々のケアの中で周囲に判らないケアを心掛けている。また、プライバシー情報に関する保護の方針・目的を策定、内部研修などで周知を図り実践しているところである。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、選択の自由を心掛けたケアを行っている。利用者との会話では命令口調にならないよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課にそった基本的な流れはあるが、個人のペースにそって無理のない生活が送れるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を自由に着て頂いている。定期的に理容ボランティアの支援、スタッフでは随時散髪、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは利用者さんと共に行っている。また味付けの助言も毎日頂いている。スタッフと利用者が同じテーブルを囲み、食事が楽しめるよう雰囲気作りを大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェックし、記録することでスタッフが情報を共有している。メニューは併設施設の管理栄養士にチェックをして頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っており、可能な限る自力で歯磨きを行って頂いている。就寝前に義歯洗浄剤での洗浄も実施し、清潔な状態を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握したうえで適切な介助を行っているところである。またプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録にて管理し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行っている。野菜、果物、繊維質の多い食材を取り入れ、栄養バランスに気を付けている。併設施設の管理栄養士からアドバイスを適宜受けたり、昼食前の全員での体操や、1日2回の歩行訓練を取り入れる等の工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、日中ではあるが一人ひとりに入浴順の記希望やタイミングを確認しながら対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握したうえで、日中に活動が多くなるよう支援させて頂き、夜には落ちついた環境を提供し、安眠して頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効についてのファイルを作成している。全職員がその情報を共有し、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の変更時には、本人への説明も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で、その方々に役割を持って頂けるよう、促し支援を行っているところである。また、生活歴などから、その人の得意なことを把握し発揮して頂けるようなチャンス作りに心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温などを考慮し、希望に沿って散歩や外出ができるよう支援しているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方は、安心感の為に自分の財布や小額の金銭を持って頂いている。買い物、ドライブなどに出掛けることで支援している。また、併設施設での喫茶店や自販機まで職員が付き添い、飲み物を購入して頂いたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが書いた年賀状を毎年送ったり、手紙に関しては必要に応じて支援している。希望のある方は、ご家族に電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様が作成した作品を廊下に掲示したり、季節に合った壁画を飾ったり、各居室の前の廊下には花を生けて飾ったりしている。台所からはいつも調理の音や匂いがするよう家庭的で居心地の良い空間づくりを心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、個々の居場所を確保し気の合ったご利用様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込んで使用して頂いている。家族の写真も目の見える所に置いたり、自分の作った作品なども飾って頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段等移動空間に手摺を配置し出来るだけ自立歩行が可能なよう安全面に配慮している。		